

米国 家計を取り巻く環境の改善、寒さで拡大ペース加速(14年11月小売売上高)

発表日：2014年12月11日(木)

～コア小売の拡大モメンタムは一段と強まった～

第一生命経済研究所 経済調査部

桂畑 誠治

03-5221-5001

小売・飲食サービス売上高 (Retail and Food Services Sales)

	小売・飲食サービス売上高		耐久財関連 (*1)				非耐久財関連 (*2)			
		除く車		自動車	家具	家電		衣料品	ガソリン	
14/01	▲0.9	(+1.8)	▲0.5	▲1.4	▲2.5	▲1.0	+2.4	▲0.7	▲1.1	+0.8
14/02	+0.9	(+1.6)	+0.4	+1.8	+2.6	+1.0	+1.1	+0.4	▲0.2	▲0.2
14/03	+1.5	(+4.1)	+0.9	+3.4	+3.9	+2.3	+2.7	+0.6	+1.5	▲1.0
14/04	+0.6	(+4.7)	+0.6	+0.8	+0.8	+0.8	▲0.7	+0.7	+1.5	+1.3
14/05	+0.4	(+4.6)	+0.4	+0.6	+0.7	▲0.4	▲0.8	+0.2	▲0.6	+0.5
14/06	+0.4	(+4.4)	+0.5	+0.2	▲0.0	▲0.0	▲0.2	+0.5	+0.2	▲0.8
14/07	+0.3	(+4.1)	+0.2	+0.3	+0.7	▲0.5	+1.1	+0.2	+0.6	▲0.0
14/08	+0.6	(+5.0)	+0.3	+1.5	+1.8	+1.6	+0.5	+0.1	+0.4	▲1.5
14/09	▲0.1	(+4.6)	+0.1	▲0.2	▲0.7	▲0.5	+5.2	▲0.2	▲1.3	▲0.8
14/10	+0.5	(+4.5)	+0.4	+0.6	+0.8	+0.7	▲1.0	+0.3	+0.6	▲1.3
14/11	+0.7	(+5.1)	+0.5	+1.5	+1.7	+0.5	+0.9	+0.3	+1.2	▲0.8

(注) 数字は季調済前月比。但し、() 内は前年同月比(未季調)。

*1:耐久財関連は、自動車・家具・家電・建材関連の売上合計。

*2:非耐久財関連は、小売売上高の合計から、耐久財関連を除いたもの。

11月小売・飲食サービス売上高は前月比+0.7%増加

14年11月の小売・飲食サービス売上高は、自動車、家電、衣料品などの増加を背景に、前月比+0.7% (10月同+0.5%) と加速し、市場予想中央値 (同+0.4%) を上回った。さらに、9、10月合計で0.4%上方修正されていることを考慮すると、市場の見方よりもかなり良い内容。

内訳を見ると、その他小売が減少に転じたうえ、家具、飲食店、通信販売、スポーツ用品・本・趣味用品が拡大ペースを鈍化した。一方、家電が増加に転じたほか、ガソリンスタンドが減少幅を縮小した。さらに、自動車・同部品、建設資材、食品・飲料、薬局、衣料品、百貨店など一般小売が増加ペースを速めた。

11月の小売売上高は、販促の強化で自動車、気温の低下により衣料品、悪天候による修繕需要で建材が加速し、全体を押し上げた。雇用・所得の緩やかな増加、借入基準の緩和、ガソリン価格の下落、良好な金融情勢など家計を取り巻く環境の改善継続、消費者マインドの上昇を背景に、小売売上高は堅調さを維持している。

11月の小売・飲食サービス売上高では自動車が最大の押し上げ

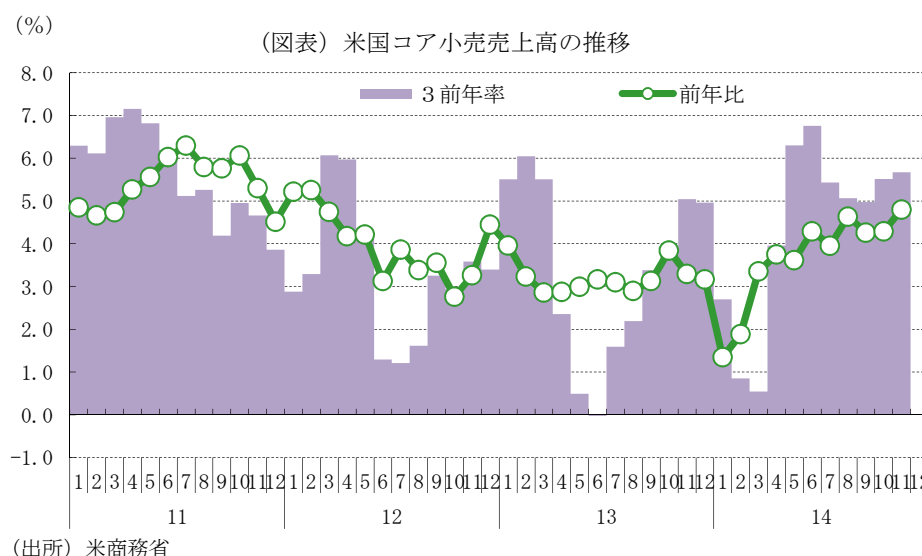
11月小売売上高の前月比 (+0.72%) の寄与度をみると、マイナス寄与の業態では、ガソリンスタンドが▲0.08%と押し下げ寄与が最も大きくなり、その他小売りが▲0.04%と続いた。一方、プラス寄与となった業態では、自動車・同部品が+0.35%と最大の押し上げ寄与となった。他では寄与度の大きい順に、通信販売が+0.09%、建設資材が+0.09%、飲食店が+0.07%、衣料品が+0.06%、百貨店を含む一般小売が+0.06%、薬局が+0.04%、食品・飲料が+0.04%、家電が+0.02%、家具が+0.01%と続いた (スポーツ用品・本・趣味用品は+0.00%)。

11月コア小売売上高は前月比+0.6%と高い伸びを維持

変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、前月比+0.5%（10月同+0.4%）と、市場予想中央値（同+0.1%）を上回ったうえ、9月、10月合計で0.2%上方修正された。また、小売売上高の基調を判断するうえで重要なコア小売売上高（自動車・ガソリン・建材を除く小売・飲食サービス売上高）は、前月比+0.6%（10月同+0.7%）と高い伸びを維持した。

コア小売売上高は、3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率+5.7%と加速し堅調維持

小売売上高のモメンタム（3ヵ月移動平均・3ヵ月前対比年率）をみると、変動の大きい自動車を除く小売・飲食サービス売上高は、建材等の拡大により+5.5%（前月+5.3%）と加速した。また、小売売上高の基調を示すコア小売売上高（自動車・ガソリン・建設資材を除く小売・飲食サービス売上高）は、電気、衣料品、薬局等の拡大等を背景に+5.7%（前月+5.5%）と加速しており、堅調さを維持している。



14年10-12月期の実質個人消費は前期比年率+2%台後半の伸びとなる公算

10-12月期の実質個人消費動向では、10、11月のコア小売売上高が7-9月期比年率+5.5%と7-9月期の前期比年率+5.0%から加速した。12月は、所得の増加、株高、金利低下、融資基準の緩和、マインドの改善のほか、ガソリン価格の下落を背景に、コア小売売上高の拡大が見込まれる。さらに、10-12月期のサービス消費は緩やかに拡大していること等を勘案すると、10-12月期の実質個人消費は前期比年率+2%台後半に加速する公算が大きい（7-9月期同+2.2%：確報で上方修正される見込み）。

